opusdei.org

聖ホセマリアの生涯 - 23

1934年、ホセマリア・エスクリバーは、後に彼の後継者となるアルバロ・デル・ポルティーリョと出会います。

2023/09/29

過去の記事はこちらから

20世紀の初頭、スペインの首都マドリードには地方から出てきた大勢の移民が貧しいスラム街を作っていました。19世紀の中頃フランスに生まれた、貧しい人々をキリスト教的に

助けることを目的とする聖ビセンシオ・パウロ会という団体があります。マドリードでも大学生や若い社会人がこの会に入り、週末に集まって貧民街で活動をしていました。しかし、貧民街には教会や金持ちの人々に対する憎しみが溢れていました。

後に聖ホセマリアの後継者となる、 アルバロ・デル・ポルティーリョは 1934年から土木工学を勉強しなが ら、官庁で仕事を始めていました。 その頃友人に誘われてこのビセンシ オ会の活動にも参加していました (このグループには、後に司祭にな り来日し、広島で司牧にあたり原爆 の際に多くの負傷者を介助した、イ エズス会のアルーペ神父もいまし た)。1934年2月のこと、彼らが貧 民街の子供たちに「カトリック要 理」を教えて帰ろうとしたとき、教 会に憎悪を抱く人たちが襲撃してき ました。アルバロは頭をスパナで殴 られ、地下鉄の駅に逃げ込み発車する で車に飛び乗り辛うじて逃れるとができました。家に帰るとらけるとがでもない。 まないた。弟や妹を怖がまないまでもは血だらけ。弟やだと言いない。 は血だらけ。弟やだと言いないはでないまでをある。 まるといたが、アルバは行いまでが、のたではいるのであります。 まるといんを助けようとしていますといる。 この年の3月、この活動に誘ってによっていました。 れたするとなりました。 となりました。

神父にいきなり「君はバナナが大好きだってね」と言われ驚きました。 実はかつて神父が病人援護会で働いていたとき、その活動を助けてひさいたとうでアルバロのおしているがいて彼のことを神父に話っといるです。それ以来神父はずっと彼のために祈っていました。アルバーになりました。社会での身分や仕事を 変えずに聖性を求めるという理想を 理解したのです。アルバロは早速友 人たちにオプス・デイのことを話し 始めました。その中に小学校時代か らの友人で、今は土木工学科の学生 であったホセ・マリア・エルナンデ ス・ガルニカがいました。

尾崎明夫

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-23/ (2025/11/21)